

平成28年度

通期業績予想

〔上半期決算反映版〕

平成28年12月

箕面都市開発株式会社

上半期決算に基づく通期業績予想の概要

1 平成28年度予算と通期業績予想を比較すると

- 通期業績予想では、予算編成時の見込みに比べ、営業利益、経常利益とも予算を上回る見込みであり、経営は順調です。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、調停条項の想定推移を上回る見込みです。
- 平成24年度末に債務超過が解消された純資産額についても、調停条項の想定推移を引き続き上回る見込みです。
- 本業の利益を示す営業利益など、いずれの利益ベース(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、調停条項を上回る見込みです。

3 今後の展望

- 今期は売上高はほぼ予算どおりで、営業利益、経常利益は予算を上回る見込みとなっており、調停条項に対しても各利益ベースで上回り、引き続き、順調な経営予想となっています。
- 今後もキャッシュフロー安定化のための経営努力を行います。

平成28年度

通期業績予想

1. 平成28年度通期業績予想

(単位:千円・%)

	平成28年度			平成28年度通期業績予想との比較			
	調停条項	予算額	通期業績予想	調停条項		予算額	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,880	128,000	128,469	21,589	20.2	469	0.4
営業利益	14,380	21,500	24,150	9,770	67.9	2,650	12.3
経常利益	12,559	19,540	22,185	9,626	76.6	2,645	13.5
当期純利益(※)	6,149	10,559	12,034	5,885	95.7	1,475	14.0
期末資金残高	85,879	105,698	106,914	21,035	24.5	1,216	1.2
純資産額	21,939	41,010	42,484	20,545	93.6	1,474	3.6

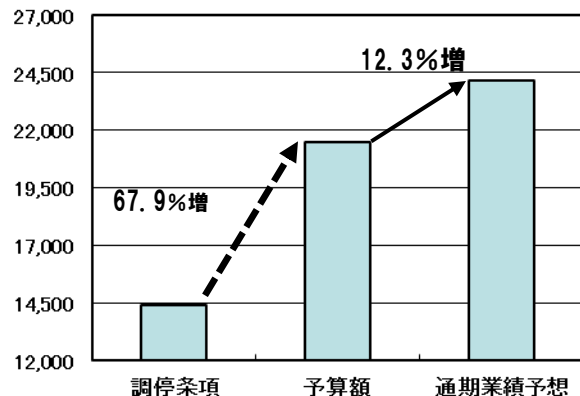
(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

通期業績予想では、すべての項目において、予算額を上回る予定です。

2. 平成28年度営業利益(本業利益)の比較

(千円)



調停条項、予算額ともに上回る予定となっています。

要因

箕面駅前駐車場の管理費や人件費の削減が営業利益増加の要因です。

3. 貸借対照表

(単位:千円)

	平成27年度 (平成27年9月30日現在)		平成28年度 (平成28年9月30日現在)		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産合計	521,052	100.0	529,605	100.0	8,553
流動資産	113,950	21.9	114,719	21.7	769
固定資産	407,102	78.1	414,886	78.3	7,784
有形固定資産	372,948	91.6	375,804	90.6	2,856
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	33,858	8.3	38,786	9.3	4,928
負債合計	466,874	89.6	458,343	86.5	▲8,531
流動負債	24,250	5.2	23,668	5.2	▲582
固定負債	442,624	94.8	434,675	94.8	▲7,949
純資産	54,178	10.4	71,262	13.5	17,084

純資産(繰延税金資産除く)	29,548	—	42,484	—	12,936
---------------	--------	---	--------	---	--------

※繰延税金資産とは・・・将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰延処理することにより生じる資産のこと

4. 決算実績と予算・通期業績予想の対比

(単位:千円・%)

	平成27年度 (予算)		平成27年度 (決算)		平成28年度 (予算)		平成28年度 (通期業績予想)		増減率	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	H27決算・ H28業績予 想対比	H28予算・ H28業績予 想対比
売上高	120,000	—	122,410	—	128,000	—	128,469	—	4.9	0.4
受託料収入	73,280	—	73,974	—	79,380	—	78,846	—	6.6	▲0.7
所有床賃貸収入	7,152	—	7,151	—	8,971	—	8,888	—	24.3	▲0.9
土地賃貸収入	22,348	—	22,870	—	22,129	—	22,849	—	▲0.1	3.3
受取手数料収入	2,420	—	2,842	—	2,620	—	2,638	—	▲7.1	0.7
文化・交流センター売上	14,800	—	15,573	—	14,900	—	15,248	—	▲2.1	2.3
営業利益	17,500	14.6	20,965	17.1	21,500	16.8	24,150	18.8	15.2	12.3
経常利益	15,501	12.9	18,684	15.3	19,540	15.3	22,185	17.3	18.7	13.5
当期純利益	—	—	15,004	12.3	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	7,835	6.5	10,076	8.2	10,559	8.2	12,034	9.4	19.4	14.0

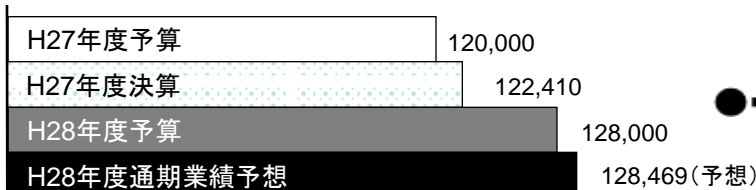
5. 売上高・利益ベースの推移

- ・平成27年度決算は、新規駐車場事業の受託料及び地権者モータープール管理手数料の増加により、予算を上回る収益が確保できました。
- ・平成28年度は、前期に引き続き、予算時に比べ売上高、営業利益、経常利益、すべての利益ベースとも上回る予定です。

H27決算・H28予算と通期業績予想の比較・主な要因

■売上高

(単位:千円)



決算比4.9%増

- ・箕面駅前第一駐車場の受託開始等に伴う増加(約470万円)による

予算比0.4%増

- ・予算通り

■営業利益



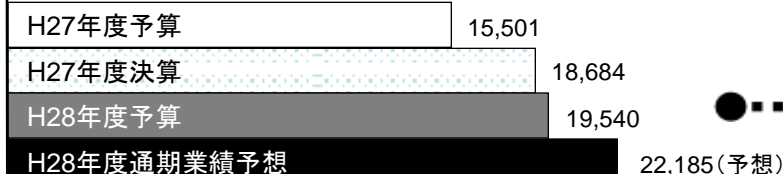
決算比15.2%増

- ・売上高増加による

予算比12.3%増

- ・箕面駅前駐車場の管理費や人件費の削減による

■経常利益



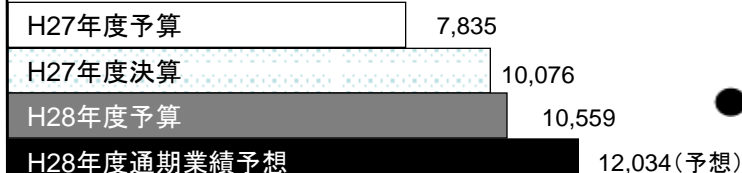
決算比18.7%増

- ・営業利益の増益による

予算比13.5%増

- ・営業利益の増益による

■当期純利益



決算比19.4%増

- ・経常利益の増益による

予算比14.0%増

- ・経常利益の増益による

参考1：経営内容を判断するポイント

■ 貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★ 調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額が増加しているのか

-----▶ 資金計画で判断することが適切

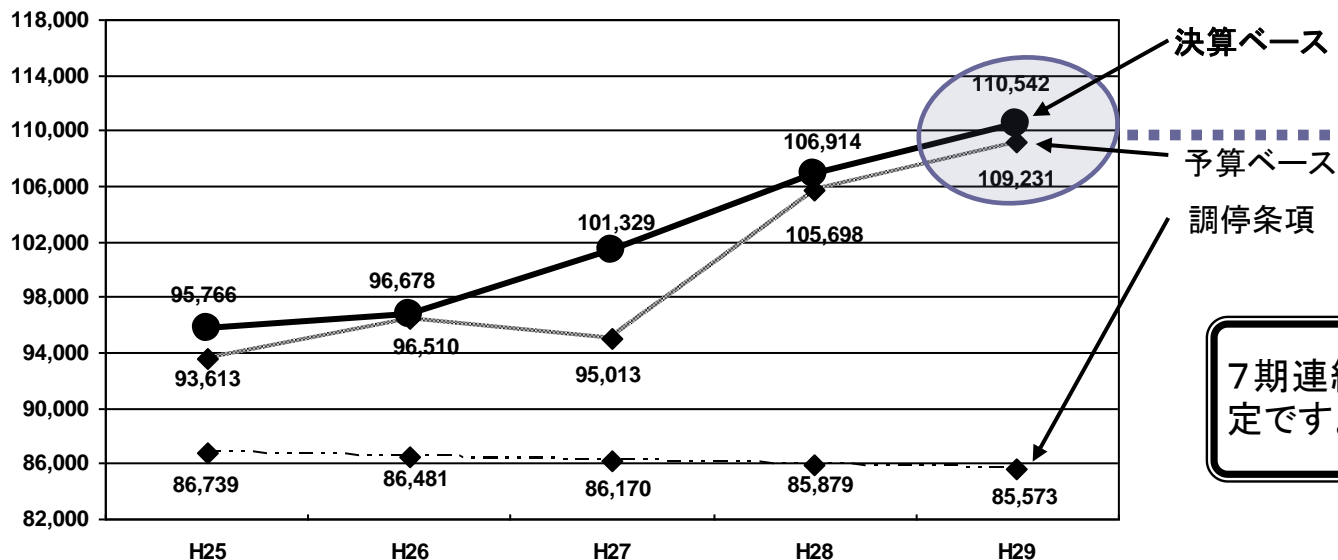
参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位：千円)

	各年度の予算・決算実績			平成28年度上半期決算からの予測	
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
調停条項	86,739	86,481	86,170	85,879	85,573
予算ベース	93,613	96,510	95,013	105,698	109,231
決算ベース	95,766	96,678	101,329	106,914	110,542

(千円)



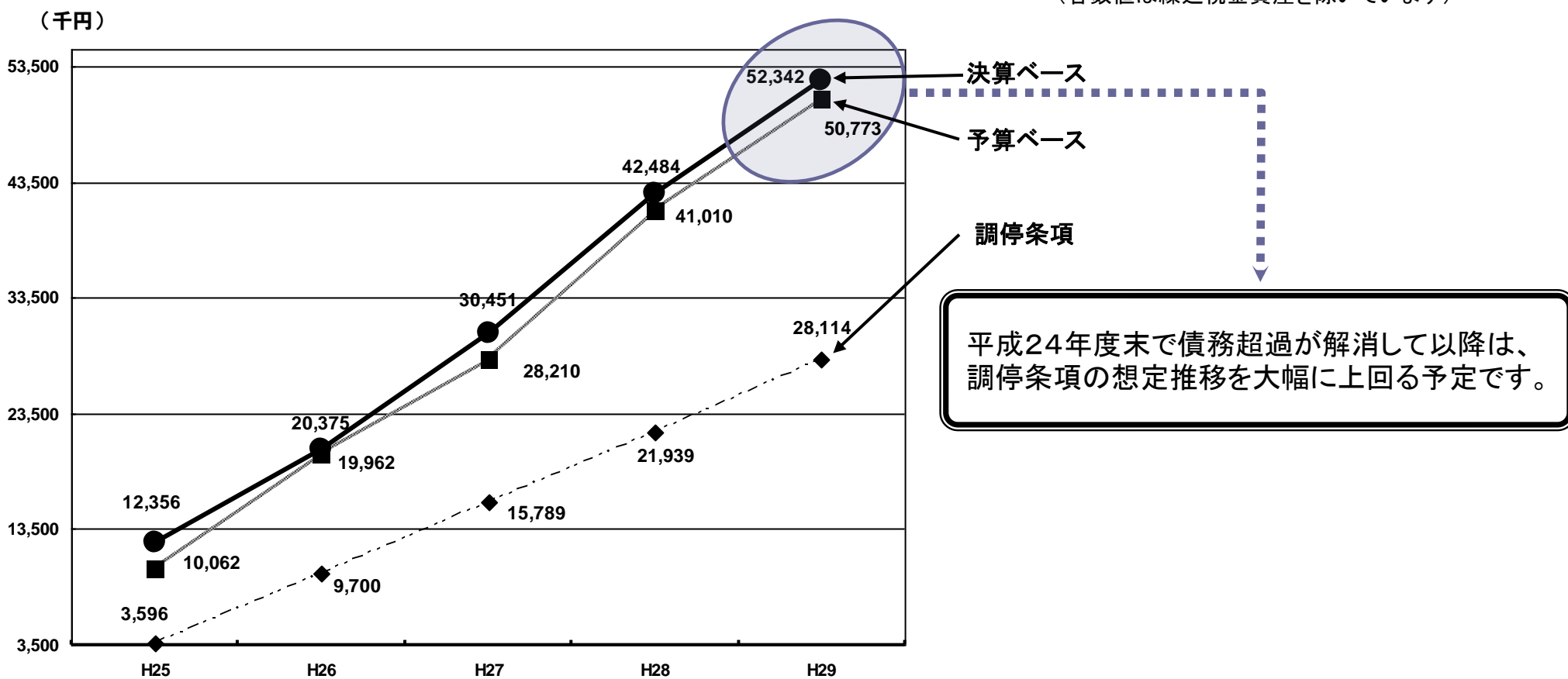
7期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成28年度上半期決算からの予測	
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
調停条項	3,596	9,700	15,789	21,939	28,114
予算ベース	10,062	19,962	28,210	41,010	50,773
決算ベース	12,356	20,375	30,451	42,484	52,342

(各数値は繰延税金資産を除いています)



参考3：事業別売上高の推移

(千円)

140,000

120,000

100,000

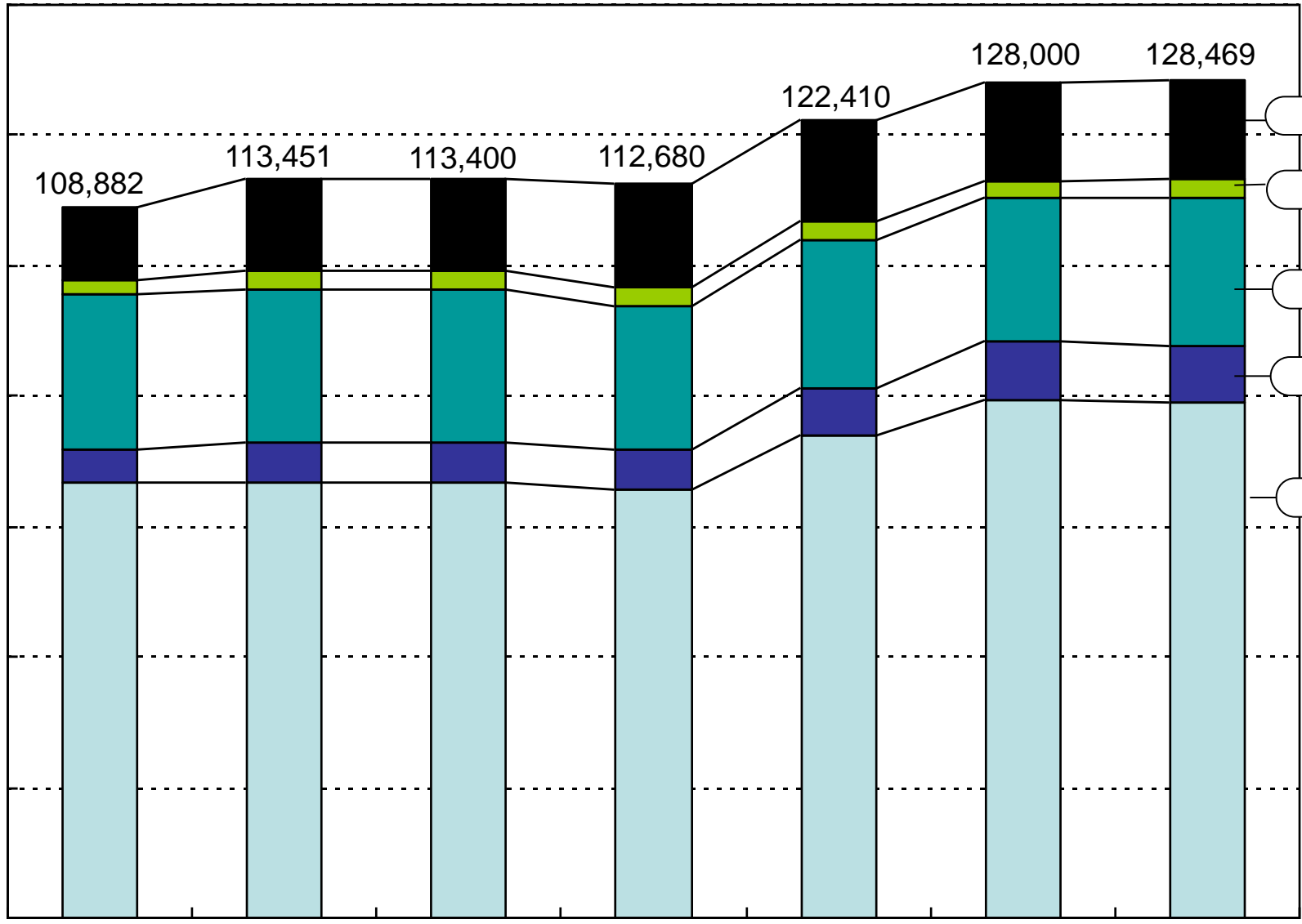
80,000

60,000

40,000

20,000

0



H23

H24

H25

H26

H27

H28
(予算)

H28
(通期業績予想)

文化・交流C売上

受取手数料収入

土地賃貸収入

所有床賃貸収入

受託料収入